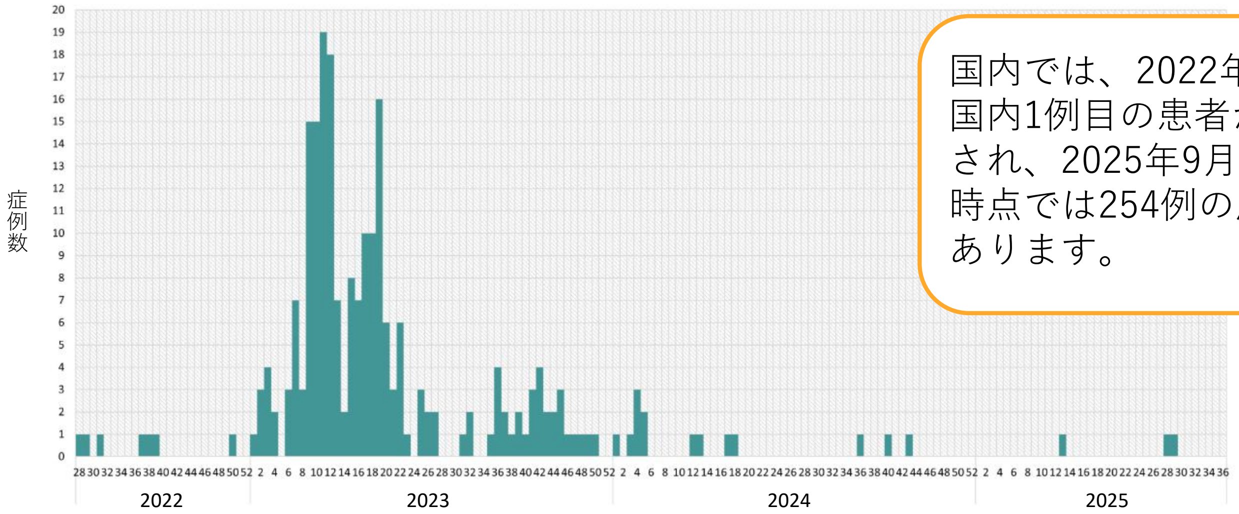
R7.9月　神戸市保健所

エムポックスについて

◎エムポックスとは？

「エムポックスウイルス」による感染症です。

エムポックスウイルスは中央アフリカで常在するウィルスがクレードⅠ、西アフリカに常在するウイルスがクレードⅡと呼ばれています。最近の知見では、適切な対症療法により、いずれのクレードでも死亡率は低いと報告されています。



発症日（年・疫学週）

国内では、2022年7月に国内1例目の患者が確認され、2025年9月12日の時点では254例の届出があります。

参考：厚生労働省　エムポックスについて
国内の発生状況

◎症状は？

- 発熱、頭痛、リンパ節の腫れなどの症状が0～５日程度持続し、発熱１～３日後に発疹が出現します。
- 発疹は顔や四肢に多く出現し、徐々に水ぶくれ状になり、最終的にはカサブタとなって剥がれ落ちます。
- 潜伏期間は、通常７～14日（最大５～21日）とされています。
- 多くの場合は２～４週間ほど症状が続いた後自然に回復します。
  しかし、小児例や患者の健康状態、合併症などで重症化することがあります。

◎感染経路は？

- アフリカに生息するリスなどのげっ歯類をはじめ、サルやウサギなどウイルスを保有する動物との接触
- 感染した人や動物の皮膚の病変、体液、血液との接触（性的接触を含む）や患者と近距離での対面で長時間飛沫にさらされること、感染している人の使用した寝具等との接触など

流行地でエムポックスウイルスを保有する可能性のある動物や感染者との接触を避けましょう

参考：厚生労働省　エムポックスについて